

## 問題 3: 解答

1. クーロンの定理を用いると,  $r$  だけ離れた場所に生じる電場は以下のように書ける。

$$\begin{aligned}
 E_p &= \frac{q}{4\pi\epsilon_0(r-a)^2} - \frac{q}{4\pi\epsilon_0(r+a)^2} \\
 &= \frac{q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \left( \frac{1}{\left(1-\frac{a}{r}\right)^2} - \frac{1}{\left(1+\frac{a}{r}\right)^2} \right) \quad \dots(1)
 \end{aligned}$$

$a$  は  $r$  に比べて微小であり, 近似すると,

$$\begin{aligned}
 E_p &= \frac{q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \left( 1 + \frac{2a}{r} - 1 + \frac{2a}{r} \right) \\
 &= + \frac{4qa}{4\pi\epsilon_0 r^3} = + \frac{qa}{\pi\epsilon_0 r^3} \quad \dots(2) \\
 &= \frac{2p}{4\pi\epsilon_0 r^3}
 \end{aligned}$$

2. イオンによって生じる, 中性原子の位置での電場は,

$$\vec{E}_{ion} = -\frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \hat{r} \quad \dots(3)$$

したがって, 生じる双極子モーメントは,

$$\vec{p} = \alpha \vec{E}_{ion} = -\frac{\alpha Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \hat{r} \quad \dots(4)$$

(2)式より,

$$\vec{E}_p = \frac{2p}{4\pi\epsilon_0 r^3} \hat{r}$$

その瞬間にイオンの位置に生じる, 誘導された電場  $\vec{E}_p$  は, (4)式を用いて,

$$\vec{E}_p = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 r^3} \left[ -\frac{2\alpha Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \hat{r} \right] = -\frac{\alpha Q}{8\pi^2 \epsilon_0^2 r^5} \hat{r}$$

これより, イオンに働く力は,

$$\vec{f} = \vec{Q}_p \vec{E} = -\frac{\alpha Q^2}{8\pi^2 \epsilon_0^2 r^5} \hat{r} \quad \dots(5)$$

負号は、この力が引力であることを示しており、 $Q^2$  から  $Q$  の符号にかかわらず、力が引力であることがわかる。

3. イオンのポテンシャルエネルギーは次のように与えられる。

$$U = \int_r^\infty \vec{f} \cdot d\vec{r} \quad \dots(6)$$

これを用いれば、

$$U = \int_r^\infty \vec{f} \cdot d\vec{r} = -\frac{\alpha Q^2}{32\pi^2 \epsilon_0^2 r^4} \quad \dots(7)$$

4.  $r_{\min}$  の位置において、角運動量保存則より、

$$\begin{aligned} m v_{\max} r_{\min} &= m v_0 b \\ v_{\max} &= v_0 \frac{b}{r_{\min}} \end{aligned} \quad \dots(8)$$

エネルギー保存則より、

$$\frac{1}{2} m v_{\max}^2 + \frac{-\alpha Q^2}{32\pi^2 \epsilon_0^2 r^4} = \frac{1}{2} m v_0^2 \quad \dots(9)$$

(8), (9)式より、

$$\begin{aligned} \left(\frac{b}{r_{\min}}\right)^2 - \frac{\alpha Q^2 / \frac{1}{2} m v_0^2}{32\pi^2 \epsilon_0^2 b^4} \left(\frac{b}{r_{\min}}\right)^4 &= 1 \\ \left(\frac{r_{\min}}{b}\right)^4 - \left(\frac{r_{\min}}{b}\right)^2 + \frac{\alpha Q^2}{16\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2 b^4} &= 0 \end{aligned} \quad \dots(10)$$

(10) 式の 2 次方程式を解き、 $\sqrt{\quad}$  をとれば、

$$r_{\min} = \frac{b}{\sqrt{2}} \left[ 1 \pm \sqrt{1 - \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2 b^4}} \right]^{\frac{1}{2}} \quad \dots(11)$$

[この式は  $b$  が 0 でないかぎり  $r_{\min}$  は 0 でないことを示している]  
 $Q=0$  を代入すると、

$$r_{\min} = \frac{b}{\sqrt{2}} [1 \pm 1]^{\frac{1}{2}}$$

$r_{\min} = b$  となるために、+ を選ぶ必要があることがわかる。

したがって、

$$r_{\min} = \frac{b}{\sqrt{2}} \left[ 1 + \sqrt{1 - \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2 b^4}} \right]^{\frac{1}{2}} \quad \dots(12)$$

5. らせん軌道を描くのは(12)式が虚数となる場合である。  
(この軌道において,  $r$  の最小値は存在しないため)  
以下の条件において  $r_{\min}$  は実数である:

$$1 \geq \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2 b^4}$$
$$b \geq b_0 = \left( \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2} \right)^{\frac{1}{4}} \quad \dots(13)$$

よって, イオンが原子に衝突するための条件は,

$$b < b_0 = \left( \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2} \right)^{\frac{1}{4}}$$

したがって, 断面積  $A$  は,

$$A = \pi b_0^2 = \pi \left( \frac{\alpha Q^2}{4\pi^2 \epsilon_0^2 m v_0^2} \right)^{\frac{1}{2}} \quad \dots(14)$$